

<カレンダーベース市中発行額>

(単位:兆円)

区 分	令和6年度当初				令和6年度補正後				令和7年度当初				(c)-(a)	(c)-(b)			
	(1回あたり)		(年間発行額 : a)		(1回あたり)		(年間発行額 : b)		(1回あたり)		(年間発行額 : c)						
40年債	0.7	×	6	回	4.2	0.7	×	6	回	4.2	0.5	×	6	回	3.0	▲1.2	▲1.2
30年債	0.9	×	12	回	10.8	0.9	×	12	回	10.8	0.8	×	12	回	9.6	▲1.2	▲1.2
20年債	1.0	×	12	回	12.0	1.0	×	12	回	12.0	1.0	×	12	回	12.0	-	-
10年債	2.6	×	12	回	31.2	2.6	×	12	回	31.2	2.6	×	12	回	31.2	-	-
5年債	2.3	×	12	回	27.6	2.3	×	12	回	27.6	2.4	×	12	回	28.8	1.2	1.2
2年債	2.6	×	12	回	31.2	2.6	×	12	回	31.2	2.6	×	12	回	31.2	-	-
割引短期国債					38.4					40.8					40.8	2.4	-
10年物価連動債	0.25	×	4	回	1.0	0.25	×	4	回	1.0	0.25	×	4	回	1.0	-	-
クライメート・トランジション国債					1.4					1.4					1.2	▲0.2	▲0.2
流動性供給入札					13.2					13.2					13.5	0.3	0.3
計					171.0					173.4					172.3	1.3	▲1.1

(表1) 割引短期国債の年限別発行予定額

年 限	令和6年度当初		令和6年度補正後		令和7年度当初		(a)-(b)	(c)-(b)									
	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(f)											
1年	3.2	×	12	回	38.4	3.2	×	12	回	38.4	3.2	×	12	回	38.4	-	-
6か月	-	0.8	×	3	回	2.4	0.4	×	6	回	2.4	2.4	-	-	-	-	

(表2) クライメート・トランジション国債の年限別発行予定額

年 限	令和6年度当初		令和6年度補正後		令和7年度当初		(a)-(b)	(c)-(b)									
	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(f)											
10年	0.35	×	2	回	0.7	0.35	×	2	回	0.7	0.3	×	2	回	0.6	▲0.1	▲0.1
5年	0.35	×	2	回	0.7	0.35	×	2	回	0.7	0.3	×	2	回	0.6	▲0.1	▲0.1

(表3) 流動性供給入札のゾーン別発行予定額

区 分	令和6年度当初		令和6年度補正後		令和7年度当初		(c)-(a)	(c)-(b)
	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(f)		
15.5年超 30年未満	3.0	2.6	2.7	▲0.3	0.1	-	-	
5年超 15.5年以下	7.2	7.6	7.8	0.6	0.2	-	-	
1年超 5年以下	3.0	3.0	3.0	-	-	-	-	

(注1) 市場参加者との意見交換を踏まえ、市場環境や発行状況に応じて、発行額を変更する可能性がある。

(注2) 40年債については、5月・7月・9月・11月・1月・3月の発行を予定している。

(注3) 割引短期国債は、政府短期証券と合わせて国庫短期証券として発行しており、表1の年限区分・発行額で発行することを想定しつつ、市場環境や投資ニーズに応じて、柔軟に年限区分・発行回数・発行額を調整。

(注4) 10年物価連動債については、5月・8月・11月・2月の発行を予定し、市場参加者との意見交換を踏まえ、市場環境や投資ニーズに応じて、柔軟に発行額を調整。

(注5) GX経済移行債及びその借換債のうち、資金使途等を定めたフレームワークに基づいて個別銘柄として発行するものが「クライメート・トランジション国債」となる。
10年クライメート・トランジション国債は10月・3月、5年クライメート・トランジション国債は7月・1月の発行を予定し、表2のとおり発行することを想定しつつ、市場参加者との意見交換を踏まえ、市場環境や投資ニーズに応じて柔軟に調整。

(注6) 流動性供給入札については、表3のゾーン区分・発行額で行うことを想定しつつ、市場参加者との意見交換を踏まえ、市場環境や投資ニーズに応じて柔軟に調整。